

岩手郡医報

昭和58年 第15号

編集／発行

岩手郡医師会 58.11.



千 沼 ケ 原

十和田八幡平国立公園中最大の湿原。

周囲はアオモリトドマツの林に囲まれ、湿原
の中に無数の池をちりばめて神秘的な風景を
みせています。残雪の間からのぞく水芭蕉、
ミズゴケやニッコウキスゲなどの高山植物が

豊富で初夏は特に美しい。散策所要時間約30分。

駒ヶ岳から、網張温泉からといろいろなコースで探勝できますが、滝ノ上温泉からがいちばん近い。（零石町役場提供）

行事関係報告

1. 日医関係

- (イ) 8月9日厚生省特定疾患酵素障害調査研究「Lesch, Nyham」症候群実態調査について
- (ロ) 8月25日医師賠償責任保険について
- (ハ) 8月31日「テレビドキュメント」「日本の医療を支える人々 生と死の谷間」の放映について

2. 県医関係

- (イ) 8月1日有機溶剤取扱者の健康に及ぼす影響の実態調査に協力方について
- (ロ) 8月22日「がん」患者の実態調査協力方について
- (ハ) 8月25日岩手県医師会名簿送付せらる。各会員に配布す。
- (ニ) 8月30日県医師会より下記の通り交付あり。

記

教職員互助会手数料	66,636 円
市町村職員	215,808
県職員	20,428
医療局職員	2,322
合 計	305,194 円

- (ホ) 9月1日文書料について
- (ニ) 9月30日全理事会並びに郡市会長会議行なわる。会議の内容下記の通り。

記

1. 開 会
1. 会長報告
1. 報 告
 - (1) 都道府県医師会長、日医連執行委員・協議委員合同会議について
 - (2) 第1回医事紛争対策委員会、医事紛争対策研修会について
 - (3) 有機溶剤取扱者の健康に対する影響の実態調査について 資料 1
 - (4) がん患者実態調査について 資料 2
 - (5) 第14回日本医師会医療経済実態調査について 資料 3

(6) 第37回東北医師会連合会総会並びに学術大会について

(7) 国民医療破壊阻止全国医師大会について 資料 4

(8) 第67回日本医師会臨時代議員会及び東北医連理事代表者合同会議について

(9) 都道府県医師会広報担当理事会(東北ブロック)について

(10) 第17回岩手県医師会親善ゴルフ大会について

(11) 保険部より 資料 5

(12) 昭和58年度県民健康講座について 資料 6

(13) 予防医学協会の現状について 資料 7

(14) その他

1. 協 議

(1) 心電図自動解析電送システムの導入について 資料 8

(2) その他
全理事会並び郡市会長合同に於ける報告並び協議事項中の要点次の通り。

(イ) 有機溶剤取扱者の健康に対する影響の実態調査は産業医を担当せらるる医療機関に於いて実施される。

(ロ) 昭和58年度県民健康講座は例年通りのこと。

(ハ) 心電図自動解析電送システムは実施するとせば

実施主体 岩手県医師会
設置場所 岩手県予防医学協会
末端実施機関50ヶ所あれば凡そ可能のこと。

(ニ) 各都市よりの報告事項

(イ) 8月末より監査が実施されありと、厚生省の医療費削減事情に関連し例年より厳しいとのことなり。

尚この監査について立会の宮古市医師会関根先生(県医師会保険部担当理事)

より説明ありたる外詳細について「みやこ医報第27号」に記載せられてある

事項を添付す。

1. 慢性疾患指導管理料について

今回は特に、この件に関しての指導が厳しくなされ、内容の記載不備が大部分でした。極端なものは、慢性疾患指導管理料のゴム印のみ、又安静、運動、栄養のゴム印のところがありましたが、これらは認められません。必ず的確に指導を行い、指導内容の要旨、診療計画、或はその計画変更があればその旨記載すること。

尚、県医師会保険部に於いても、この問題を重視して、10月7日、協議会を開催する予定です。ここでその結果、指導管理料指針の大綱について（1回だけの会議では無理かも知れませんが）記載方法等を作成したいと思います。

2. 医薬品の使用について

- ・使用する医薬品、特に適応症については、この間も御連絡致しましたが、薬業時報社発行の日本医薬品集（第7版、1983年版）により指導が行われ、適応症以外の使用医薬品についてはこれを認められません。

- ・又、老人に対しての長期間にわたる投薬については、その副作用に厳重に注意するようにされたいとのことです。

- ・抗甲状腺剤、抗てんかん剤、抗結核薬は4週間の投薬ができますが、これに併用するのは健胃消化剤のみで、抗潰瘍剤を用いないようにして下さい。

3. 診療内容及診療録について

- ・合併症、即ち第2病、第3病に対しても必ず、その症状の経過をよく観察して、重点的に記載していただきたい。尚、高血圧のみのfollow upでの検査は、5～6ヶ月に1回位、合併症があるものに対しては、1ヶ月或は2～3ヶ月に1回位の各種検査が妥当であり、その結果を正しい診断経過観察の判断資料としていただきたい。

岩手県医師会理事 関根一男

・診療録がまだ古い用紙を使用している医療機関がありますが、必ず規定の様式のものを使用すること。（多少の工夫を加えることは、差し支えない。）

・診療録を書き替えるとき、初診時からの重点事項を必ず転記するようにする。尚、転医した時は病名を中止する。

4. 入院、その他について

- ・長期入院患者の外泊期間が10日～14日を超す場合は、一旦退院の手続をとるようにする。

- ・松山荘、老人ホーム、はまゆり及びわかたけ学園等の嘱託医が定期的、或は不定期にこれらの施設に出向き検診、及び診療にあたった場合、往診料の算定の可否を問わず、保険診療はできないし、保険請求もできない。

但し、施設より患者が医療機関に出向き、診療を受ける場合はこの限りでない。又、これらの施設が保険医療機関の指定を受けている場合は、その施設内の診療所より保険請求がなされ、これらの施設の嘱託医が所属する医療機関からは、当然保険請求はできない。

尚、この施設の診療についての詳細は、後日県保険課より通知があると思います。

以上、要点のみ報告しましたが、最後に我々をとりまく医療環境は益々厳しさを増してまいります。年々増額する膨大な医療費に対し、次々と打ちだされた厚生省の総医療費抑制策、医療費無駄の排除、更にマスコミと、そしてレンボーンシステム等、このような時期に苟も指摘されるようなことのない、定められたルールに則った保険診療を行うよう、全員一同心掛けたいものです。

以上

8月30日、31日両日に亘り県より二技官三事務官が見えられ当医師会員に対し指導を行いました。本来なれば来年2月の予定の様に聞いて居りましたが、時期を早めての今回の指導は個々には私達会員が感謝で一杯の温和で穏かな形もありましたが時には苛斂誅求的な面もあり、国家財政の緊迫下に如何に厚生省の姿勢が強いかと云うことを痛感した次第です。

我々医師としては日常の保険診療に当り何も萎縮する事はないが、当然としての診療行為、又事務的な面、例えばカルテの記載等に一層の自覚を持たれる様感じた次第です。

次に指導に当つての注意事項を列記致します。

- 自分の独善でなく誰がみても納得できる記載。
- 来院時の月日、症状の変化、処置、処方注射等の正確な記入。

尚、施設の診療についての詳細については後日岩手県福祉部保険課より通知があるとのことです。

岩手郡医師会内では岩手町、葛巻町、松尾村、玉山村、滝沢村、零石町の6ヶ町村が関係があります。

(ii) 医療費の通知運動について

既に御承知の如く別紙添付の如き通知が国保連より各町村に指導されて居ります。

宮古医師会保険部長 山崎 隆

◦慢性疾患指導管理料について

慢性疾患指導管理料の印では不可。

内容として2~3行でも記入す可きこと。

印だけでは不可として、指導管理を過誤調整として返還させられている。

此の点は会員は過日配布して居る疑義問題協議会報で承知の事と思う。

◦当然乍ら疾病に対する諸検査を行わなければ治療の方針が立たぬ故必要な検査はなす可きである。

◦必要な時は他医との対診依頼も大いに可。

◦治癒の判断

医師の判断の他に社会的な治癒、即ち日常生活に支障のない場合を云う。

◦次の指導迄に記載を確実になす可き事。

以上 保険部

尚、この医療通知に関し一部の医師会は関連町村と協議の上の二点丈通知する様話し合い、決定したるところあり。

(a) 高額医療費のもの

(b) 国保税滞納者

(c) 10月1日昭和59年2月19日北上市に於て開催の県医師会囲碁大会の申込について担当の和賀医師会長より通知あり。

医療費通知を統一（県国保連）

電算処理し市町村へ送付

これまで、県下市町村まちまちであった国保加入者への“医療費通知”が統一される。医療費の通知制度は、被保険者に対し国保が支払った医療費を通知、医療費の節約などを図るために始められたものだが、通知回数や通知内容が市町村によってまちまち。このため県国保連が保険事務を共同電算処理し統一された医療費の通知資料を作成、これを市町村へ送り市町村が従来通り被保険者へ通知することになった。実施回数は“年二回”と決められ、4~9月分を12月に、10月から翌年3月分を6月にそれぞれ通

12月から実施

知、受診年月、受診者名、医療費、医科、歯科、薬局、入院、通院の別などが通知内容に盛り込まれる。この結果、県下62市町村の通知制度が統一されることになった。

本県における国民健康保険の医療費通知は、ことし3月末で見ると、全市町村が実施している。実施回数は年6回という村も1村あり、これが最高。以下5回が1町、3回が3市町村、2回5市町村、ほとんどの市町村は年1回(52市町村)。実施対象世帯では、全世帯が42市町村、ついで行政区単位12市町村などのほか、多

重診療世帯や高額診療世帯を対象に実施する所もあるなど、通知内容は市町村によってまちまち。

通知内容も受診年月、受診者名、入院・通院・歯科・薬局の別、入院・通院日数一の市町村がほとんどと、統一性がない。これは市町村の財政問題、事務量の差によるので、この統一を目指していた県国保連と県下市町村は、国保連での国保保険者事務電算化共同処理が可能となつたため、本年度から全市町村統一した“医療費通知”を実施することにした。

(～) 10月5日、昭和59年1月22日開催の岩手県医師会主催の岩手県学校保健大会の演題の申込について通知あり。

当医師会は昭和56年度に実施せる学童並びに生徒の扁平足調査並びに前回調査の結果扁平足と診定せられたる者の追跡調査を昭和58年度に実施しその結果を報告の予定。

現在秋浜担当理事、長谷川、早藤、森先生の間において鋭意作業をすゝめつつきあり。上記4氏の労を多として深く感謝の意を表す。

III 郡医師会関係

1) 入退会

(イ)入会 なし

(ロ)退会

角田則子先生 小岩井診療所
盛岡市西松園に西松園内科医院を開業せらる。
熊谷文五郎先生（一方井診療所）
前号記載の如く8月15日急逝せられ退会す。

2) 移動（郡医師会管内）

熊谷小次郎先生（田山診療所）には、亡兄文五郎先生の跡をつぎ一方井診療所にて開業せらる。

3) 弔事

10月4日滝沢村高橋（牧）先生御母堂逝去せらる。

4) 8月22日管内各学校養護教諭に対し参考

それによると、4～9月診療分を12月に通知、10～3月分を6月に通知する年2回通知とし、①受診年月 ②受診者名 ③医科・歯科、薬局、入院・通院の別 ④医療費の額を盛り込む。通知世帯は、医療を受けた全世帯とし、国保連が全市町村の保険者事務を共同電算処理、医療費通知の資料を作成し県下市町村へ送る。市町村ではこの資料に基づき、医療を受けた世帯へ通知する仕組みで、通知資料統一後の第一回通知は12月に行われる予定。

文献初潮を配布す。

- 5) 同日日曜1日人間ドックの申込方を発送す。
- 6) 9月14日A及びB両会員に対し会費の納入方通知す。
- 7) 9月30日文書料に関する書類を発送す。

IV 予防医学協会

- 1) 9月22日、昭和58年度児童生徒の諸検査、検診を下記の通り行なう旨通知あり。

記

日時 昭和58年10月25日26日

場所 つなぎ温泉 つなぎ旅館

会長出席の予定

V 其の他

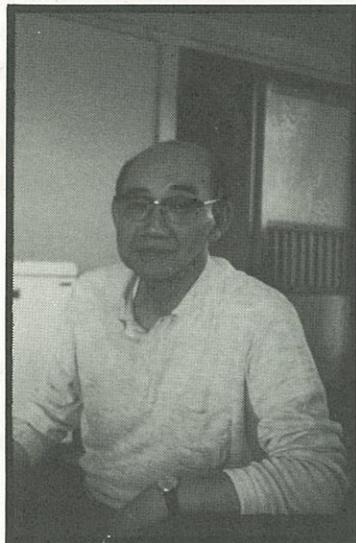
- 1) 盛岡市長より国民健康保険証更新について連絡あり。

盛岡近隣の療養担当者に連絡す。

- 2) 8月30日、北方領土返還に関する署名運動について依頼あり、仍而取り急ぎ役員に連絡の上提出す。

VI 本期間中急逝せられました故熊谷文五郎先生の葬儀の際の郡医師会長の弔辞次の通りです。

弔辭



八月十五日夜、当会監事、熊谷文五郎先生の突然の訃報に接し、誠に痛寂に堪えない次第であります。

ここに社団法人岩手郡医師会員一同を代表し謹んで先生の御靈前に最後の御別れの言葉を申し上げます。

先生は昭和二十七年岩手医科大学を卒業なされ、昭和二十九年県立種市病院に勤務なされ、次いで昭和三十五年より下閉伊郡田老町立病院に勤務の上昭和四十年四月より今日迄岩手町一方井に於いて開業なされて居られました。

この間昭和四十九年より今日迄約十年間当会監事として常に役員会に出席なされ医師会活動に努力なされ本会業務の遂行に特段の貢献をなされた次第です。

先生は性極めて温厚且抱擁力に富まれその上会議のまとめ役として常に偉大なる力を發揮なされました。

又、一方井に在りましては地域只一ヶ所の医療機関として地域保健衛生の向上に又、一方井小、中学校の校医としてその上岩手町内の学校医の代表者として今日迄献身的努力をなされて居られました。この間の御努力に対しまして厚く敬意と感謝を申し上げる次第であります。

今日私共の医療を取り巻く環境は極めてきびしいものがあります。曰く地域保健衛生の向上、老人保健問題等、この時期に先生を失いました事は岩手町一方井のみならず私共社団法人岩手郡医師会にとりましても誠に甚大なる損失でございます。

今后私共の会合にて先生の温顔に接することの出来ない事は甚だ残念でなりません。

私共医師会一同今後共先生の遺徳をしのび乍ら医師会の発展に努力いたす覚悟で居ります。

又、遺されました奥様、子供さん達を草葉の蔭よりお守り下さい。

文五郎先生、これで御別れといたします。

昭和五十八年八月二十日

社団法人 岩手郡医師会長
上野 精三

尚故熊谷文五郎先生の末亡人イオ子様より会員一同に宛て次の御礼状が参って居ります。

謹啓

先般文五郎先生の際は
弔慰篤なる御弔詞を頂け且つ
古鄭重にもお供物を賜り厚くお礼申し
程誠に有りがたく厚くお礼申し
上げます

本日

仁徳院文岳悟道居士
七日忌に相当地にて内々に
了法要相嘗申す
茲に故人の生前申に於ける
古厚誼に深謝し勝手ではござ
いませんが後に残された私共に対する
よりて故人同様のほ指導と
お鞭撻の程もしくお願ひま
上手に略儀から書申と以て
謹んで古挨拶申し上げます
承
熊谷イオ子

昭和五八年十月二十日

第35回県医師会野球大会始末記

第35回野球大会は8月21日一関工高グラウンドの開会式に引き続き4会場で熱戦の火ぶたがきられた。我が岩手郡チームは佐藤(郁)、高橋(司)の両主力選手を欠き乍らも1回戦、2回戦と勝ち進み、3回戦で惜しくも敗退したが善戦健闘その実力の一端を充分に示した。

ではその戦いの跡を振り返ってみよう。

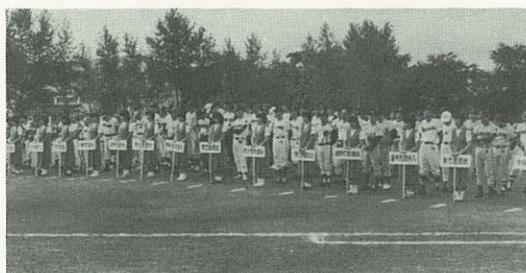
(第1回戦 対宮古医師会チーム)

メンバー<宮古>

	1	2	3	4	計
宮古	0	0	1	0	1
岩手	0	1	0	4	5

<岩手>

1 三	嶋	1 一 内田
2 遊	岡田	2 二・投 佐々木
3 中	篠村	3 捕 柴野
4 左	遠藤	4 投・二 小野廣
5 投	武内	5 遊 (石川
6 二	西嶋	" 有原
7 右	(上原	6 左 高橋
"	佐々木	7 三 三浦
8 一	高橋牧	8 中 及川
9 捕	宮沢	9 右 道又



試合経過

1回表宮古チーム先頭の内田いきなり死球で出塁二盗、佐々木は武内投手の剛球に三振に倒れたが、柴野、小原と立ち上り制球に苦しむ武内投手の球を選んで出塁一死満塁の大ピンチとなった。しかし漸く本来の速球が極まり出した武内投手は石川、高橋と連続三振に討ち取り宮古無得点。1回裏今大会絶好調の先頭打者嶋が小原投手の第1球をいきなり左翼頭上を越す三

塁打でチャンスの芽をつかんだが強攻策が裏目に出で岡田三捕、篠村投飛、期待の強打遠藤遊捕で先制機を逸す。

2回表宮古、先頭の三浦二飛、及川三振、道又投捕で軽く三者凡退。二回裏岩手チームの攻撃はこの回先頭の武内、遊内野安打で出塁、投手の暴投で二進、西嶋、上原と連続四球で無死満塁となり投手の暴投で武内生還、先取点をあげ尚も追加得点のチャンスであったが高橋(牧)三飛、宮沢投飛、当り屋の嶋三捕で追加点ならず1点にとどまる。

3回表宮古チーム、先頭の内田右越の二塁打、佐々木左飛で一死、柴野の遊捕送球を一塁手落球(グラウンドのせいいか年の故か?)この間に内田生還1点を返し尚走者二塁だったが小原、石川と連続三振に討ち取り追加点をはばむ。3回裏岩手チーム、岡田二捕失で出塁、すかさず二盗を試みたが敵捕手意外に強肩で失敗一死、篠村、遠藤共に三捕で無得点。

4回表宮古チームの攻撃、この回武内投手の快腕さえ渡り、高橋、三浦、及川と三者連続三振、僅か10球でチェンジ。4回裏岩手チーム、武内中越二塁打、西嶋これ又左越快心の二塁打で武内生還、続く上原の代打の佐々木が替りばなの佐々木投手から左前安打、投手の暴投で三進していた西嶋生還、高橋(牧)四球、宮沢三捕失で出塁、尚も嶋四球を選び一死満塁となる。岡田二捕、篠村の二飛をエラー、高橋、宮沢と生還、遠藤一飛で時間切れ終了となる。結局5対1で圧勝したが武内投手の好投と我軍最終回のたたみかける攻撃が光っていた。

(第2回戦 対東磐井郡医師会チーム)

	1	2	3	4	計
岩手	3	0	0	0	3
東磐井	1	0	0	0	1

メンバー

<岩手>		<東磐井>	
1 三 嶋	三 川 上		
2 遊 岡 田	遊 及川 (和)		
3 中 篠 村	中 吉 田		
4 左 遠 藤	一 角 田		
5 投 武 内	左 及川 (和)		
6 二 西 嶋	(二 阿 部 投 遠 藤		
7 一 高 橋 (牧)	右 小 原		
8 右 (瓜 田 佐々木)	捕 多 田		
9 捕 上 原	投・二 本 多		

試合経過

1回表岩手チーム、好調の嶋左前にクリーンヒット後二盗、岡田遊飛、篠村得意のライナー性中前痛打、一死二三塁となったが今大会調子の出ない遠藤三振、チャンスがつぶれたかにみえたが、武内遊駆エラーで嶋生還、武内二盗後西嶋の何でもない投飛をエラー篠村、武内と相次いで生還、高橋三飛でチェンジとなったが敵失に乗じて幸先いい3点を先取す。1回裏東磐井チーム、先頭の川上三振、及川(和)投駆と幸先いいスタートをきったが吉田の右越二塁打と投手の暴投で二死三塁、角田中前安打で吉田生還1点を返す。及川(司)三駆でチェンジ。

2回表岩手チーム、瓜田三振、上原右飛で二死となったが嶋又もや左越二塁打で追加得点となるかと思われたが岡田の痛烈な当りを左翼手巧捕し無得点。2回裏東磐井チーム、阿部捕飛、小原投駆、多田一駆で軽く三者凡退。

3回表岩手チーム、篠村四球、遠藤投飛、武内投駆エラーで出塁したが西嶋捕飛、高橋(牧)三飛で無得点。3回裏東磐井チーム、本田三駆、川上、及川連続四球で出塁したが吉田投駆、角田二駆と難なくピンチを切り抜けた。

4回表岩手チームの攻撃、この回より投手遠藤となる。先頭の瓜田に代る佐々木投駆、上原三駆、嶋三飛で三者凡退す。4回裏東磐井チーム、及川(司)捕飛、阿部の代打遠藤三振、小原四球で出塁後二盗したが多田三振で時間切れ

試合終了となる。

チーム力に於ては大した差がないと思われたが結局初回の3点が物を言い快勝した。

(第3回戦 対一関医師会Bチーム)

メンバー

<一関B>	
1 遊 柳 沢	
2 投 鈴 木	
3 中 佐 藤	
4 捕 菊 池	
5 三 三 浦	
6 一 小 原	
7 左 岩 崎	
8 二 佐々木	
9 右 遠 藤	

<岩手>

1 三 嶋	
2 二 西 嶋	
3 中 篠 村	
4 左 遠 藤	
5 遊 武 内	
6 投 岡 田	
7 一 高 橋	
8 右 (瓜 田 佐々木)	
9 捕 宮 沢	

試合経過

相手チームは第1回戦で遠野医師会を一蹴し余力充分な若さ溢れるチームであり、対する我がチームは2回戦を勝ち進んできたが、練習不足のためか各選手漸やく疲労の色濃くこれ以上勝進むと翌日の診療業務に差支える懸念もあり、適当に楽しんで相手チームに花を持たせようということに衆議一決した。

1回表一関チーム、武内投手の疲労甚だしく我がチームは急遽軟投の岡田をマウンドに送った。岡田投手は打たせてとるピッチングでたくみに相手のタイミングを外して好投をみせたが、疲れ切った味方守備陣の思わぬ乱れから大量得点を許す羽目となった。即ち先頭の柳沢の遊駆を一塁に悪送球、直ちに二盗、鈴木中飛、佐藤の投駆を軽くさばいて一塁送球したが名手高橋

一塁手どうしたことかこれを落球、菊池の三捕を嶋エラー、三浦左越大三塁打で塁上の走者一掃、小原三捕エラー後二盗、岩崎の中犠飛で三浦生還4点目、佐々木二捕の送球を一塁手又もや落球、二死一二塁となったが遠藤遊飛で漸くチェンジ。エラーがなければ無失点というケースであった。1回裏岩手チームの攻撃、やらずもがなの4点を献上した我がチームもかくてはならじと先頭の嶋、左前に快打、続く西嶋も負けじと右翼線上に痛烈な二塁打で嶋生還。篠村三捕、一塁手の落球で出塁し、すかさず二盗と無死二三塁、大反撃のチャンスをつかみかけたが、遠藤の打席で投手の暴投あり西嶋生還、一気にたまみかける絶好機だったが今大会絶不調の遠藤三振、武内三捕、岡田三飛でこの回2得点にとどまった。

2回表一関チームの攻撃、柳沢中飛、難かしい当りであったが篠村好捕、今大会再三再四に亘る篠村中堅手の堅守が光った。鈴木四球後盗塁、投手の暴投で三進、佐藤三捕の間に鈴木生還、菊池いい当りの中飛も篠村好捕、1得点に止まる。

2回裏岩手チーム、高橋（牧）三振、瓜田の代打佐々木痛烈な一塁ライナーも好守に阻まれ宮沢捕飛で無得点。3回表一関チーム、三浦三飛、小原投捕、岩崎三振と岡田投手好投で三者凡退。3回裏岩手チーム、嶋、西嶋と相次いで三振、篠村三捕で三者凡退。

4回表、一関チーム、佐々木三捕失で出塁、遠藤三捕、柳沢左前安打後盗塁、二進していた佐々木生還、鈴木中前打で柳沢生還、鈴木二盗三盗す。佐藤二飛、菊池の遊捕送球を又も一塁手落球、この間に鈴木生還、三浦右翼二塁打で二進していた菊池生還、小原三振で漸くチェンジとなる。1回に引き続きこの回もエラーが続き、やらずもがなの大量得点を与えたのが惜しまれる。4回裏岩手チーム、最終回の攻撃となつたが先頭の遠藤三振、武内三捕、岡田中前に快打出塁したが高橋の遊捕で二封され時間切れ試合終了となる。

総評

我が岩手チームは佐藤（郁）、高橋（司）両主力選手の欠場でベストメンバーが組めなかつたが予想以上に健斗したと言えよう。練習不足と使い慣れないグローブと限界にきた疲労などでエラー続出し第3戦は大差で敗れはしたが実力的には互角であり、もしベストメンバーで臨み、又翌日の診療を考慮に入れずとことん戦う気になれば優勝をも争えるチームであると思う。

加藤副会長が観戦に来られたが、数あるチームを見て廻っても我がチームの武内投手が最も傑出した投手であろうとの話であった。今回から瓜田、上原両選手の若い力を得て好試合を開いたが、佐藤（郁）、高橋（司）両選手の欠場は誠に痛手であった。大会三試合を通じて嶋先生の巧打と篠村先生の堅守が特に光彩を放っていたし又武内投手の胸のすくピッチングと岡田投手の頭脳的投球も印象に残った。

来年の宮古大会では今年以上のいいゲームを期待している。

選手の皆様誠に御苦労様でした。

(近藤記)



鳴呼あの頃（其の拾式）

上野精三

10月31日夜あのなつかしい消燈「ラッパ」と共に封筒状の寝台にもぐり込んだら誰云うとなく「今夜眠ればあと1ヶ月だぞ」とさけんだので、皆がそうだそだと同調し、まもなく班内は静かとなり全員白河夜舟となりました。この状態から皆が如何に満期除隊を待ちわびていたかを想像してみて下さい。何分捕われの身なんですから。

1) 11月1日の起床の挨拶

本来なら「お早よう」で始まる訳ですが今日は「あと30日だぞ」の挨拶に変りました。

昼食後の1時間の休憩時間を利用して、色々と離散会等の行事計画を立案した訳です。

何分計画といつても日曜日丈利用出来るので、つまり11月中の4回の日曜日の利用について次の通り計画した訳です。

1. 中隊将校に対する謝恩会
2. " 下士官に "
3. 班付上等兵に "
4. 吾々一同の離散会

4だけは大鷗温泉で盛大にやろう。

以上の様に決定し古参軍曹で吾々の助教であった上閉伊郡大槌町出身の一兜三大軍曹（大東亜戦争で南方戦線で名誉の戦死された方）に御伺いを立てたら毎年の例もあるので全部よろしい。自分より中隊長殿外各位に連絡しておくからとのことなり。古参軍曹となれば万事手馴れたものと皆で感心することしきりなり。仍而私共は各謝恩会の幹事役を分担す。

2) 最後の月の諸行事

分隊長、小隊長、中隊長、大隊長の試験は既に合格しあるも、軍医将校となるべき終末試験と選衡会議の二大試験がある訳です。兵科の幹部候補生は20%位宛毎年不合格となっ

て下士官の最下位の伍長に任官する訳です。

只第8師団の衛生部幹部候補生で只一人丈終末試験に合格し選衡会議で不合格になった候補生があるとのことは前々から私共は教えられて居りました。岩手県南の方（故人）ですが終末試験に合格した翌々日の日曜日に外出してうれしさの余り呑み過ぎて〇〇（今は公けにはありませんが、内緒では或いはあるかも知れません。私は不勉強の為詳細は判りませんので）に登〇（帰営時間に遅れた訳です。従って将校選衡会議で将校不適当と判定され不合格となった訳です。この様なケースは長年の日本の軍隊で只一度丈だと言うことを聞きました。只この候補生は終末試験に合格して居る為将校選衡会議で不合格となつても最後は伍長でなく、衛生曹長となる訳です。後年支那事変、大東亜戦争の際この方が私の隊に召集されましたが、何年努めても准士官にもなれず、大変氣の毒でした。又人事を担当した私のつらさも格別なものでした。

何分将校選衡会議に於て将校として不適当と判定されたもので。

3) 終末試験

11月上旬師団軍医部会議室にて入学試験同様一同着席の上午前2時間午後2時間の学科試験です。医師としてより、軍の医師、つまり軍医として知っておらねばならないことについての試験で案外簡単でした。

4) 将校選衡会議

終末試験の合格発表後約1週間目です。師団軍医部会議室を今なら法廷と言う方がよいかも知れません。いかめしい型に試験官の机を並べ、私達は法廷に於ける被告席の様な凧に椅子を与へられ試問に対し直立不動の姿勢

で答える訳です。

将校選衡会議委員次の通りです。

委員長 師団軍医部長業務兼掌

一等軍医正（後の大佐）○学○

前号で私共○ 色○と呼んだ方

委員 師団軍医部高級部員

陸軍二等軍医正 斎○順○

委員 師団軍医部部員

陸軍三等薬剤正 原○吉○

以上三氏が法廷に於ける裁判長、裁判官の様に着席する前に私共候補生一人一人被告人の様に呼び出され尋問された訳です。色々口答試問の上、最後は○学○委員長より合格と判断を下され最後の一言は体を大切に何時でも御召しにあずかる様準備のことと、なんだか有難いやら、恨めしいやら甚だ複雑な気持ちで法廷（否試験場）を退出した訳です。正直の処うれしさ30%、恨めしさ70%と言うのが本当だったでしょう。

5) 各謝恩会

日曜毎に一兜古参軍曹が設営して下さった料亭（何分私共は捕われの身で日曜以外は外出不能です）で謝恩会を午後2時より約3時間の予定で開いた訳です。

その際幹事役の一人が立って次の様に挨拶をする訳です。

幹事1名起立の上

陸軍衛生部幹部候○○○○外○名、去る2月1日当中隊に入隊以来約10ヶ月の間中隊長始め中隊長付将校団各位の暖い御指導のもとに今日に致りました。余す処約2週間にて満期除隊を命ぜらるゝ事と相成りました。今日迄の各位の親身に勝る御指導に対しまして誠に感謝感激に堪えません。一同に代り厚く御礼申し上げます。尚約2週間後満期除隊し地方に帰りましても今日迄の御薰陶を深く胸に秘

め、一旦緩急の際は直ちに御召しに預り義勇奉公の誠を捧げる覚悟で御座居ます。

今后共宜敷く御鞭撻の程御願い申し上げます。本日は甚だ粗酒粗肴でございますが、私共の意のある処を御くみとりいただきゆっくり御歓談の程御願ひ申し上げます。以上終り。

この様な挨拶のあと謝恩会となった訳です。

今考えますとよくも誠しやかに云つものと慙愧に堪えません。当時の上官各位が生存中ならお詫びしたい気持ちです。

残念乍ら皆既に靖国神社に祭られて居られます。本年9月靖国神社に参拝の際御詫び申し上げる予定ですので不悪。

6) 離散会

この会は私共幹部候補生が10ヶ月の捕われ生活を清算する最後の一番楽しい会です。11月下旬の最後の日曜が予定され居りました。1行7名は前日の午後衛戍地外出許可を願い出て許可証と云う焼印を押した木片を一人一人頂戴して朝食後営門前より2台のタクシーに分乗し一路大鰐温泉のホテル加賀助に直行し、二階の8畳2間を占領した訳です。一同直ちに軍人として身の廻りの物を取りはずしてホテルの丹前を着用。先づ軍隊の垢を払うため入浴いたしました。入浴後先の二人は碁を囲み次の四人は麻雀台を囲み戦斗開始した訳です。最後の一人Y県T町（現在は市）出身のK・S君（新潟医大出身）は俺の遊ぶのがないと言うのです。本来K・S君は班内で動作が一番緩慢な方でした。従って湯上り動作も遅れて最後でした。誰かがS君麻雀は四人でなく五人でやるもんだよ。一人は御茶つぎなんだ。と云うと彼曰く「そうか」と云って碁組麻雀組の合計6人に御茶をつぎ終ると突然廊下に行って何か見て手で合図をして居りました。大鰐川を狭んで向側の廊下に若

い美人が椅子に坐って何か読んで居るのは私共も皆わかつて居りましたが、六人は皆運悪く長男なるため青森県の美人には無関心でした。S君突然僕一寸その辺に行って来るよ、とのことです。皆「そうか」と言う丈でした。昼食近くなつてS君より電話あり、「僕昼食いらんよ」とのことでした。「詳細は又電話するから」とのこと。

一同昼食際飲んで食って騒いで一日中楽しく（S君丈は別）暮した訳です。

午后6時が帰営時間ですので午后5時帰路につく予定でしたが、S君がホテルに帰つて来ません。皆でS君どうしたと案じて居りましたら、まもなくS君の代人若々しい美人の声で、Sさんは私の家で飲んで居りますので帰る際Sさんの軍刀、軍靴、軍衣、袴、襦袢、袴下、洗面道具を持って私の家に寄つて下さるようにとのことなり。誰かが曰く「S君捕虜になったのではないか」他の一人曰く「何S君オンジ（二男以下の男の総称）だからなー」別の一人曰く「オンジなど、どうなってもいいんだ」と、オンジも勝手だけれど色々な事を言う長男族も又勝手な連中でした。今なら差し当り勝手連というところです。

そこで長男族一同2台のタクシーに分乗し彼S君の荷物を皆で持つて寄つた処は大鰐町○医院です。（玉山村秋浜先生の御奥様が委細熟知の筈）○医院では、先生、奥様、娘さん（美人）の三人が玄関に出られ曰く（Sさんは本日私の娘に婿に入られました。どうぞ今後共宜敷く御願いいたします。）とのこと、私共長男族一同さもありなん、彼の事だからと云うて先生と奥さんより色々の珍らしい御土産をいただいて居ると彼S君軍服に着換えて美人娘を後に従えて悠然とほろ酔い顔で出て来て曰く「君等淋しかったろう、でも君等もあと1週間の辛棒だよ。」いやはや長男族

一同オンジ族に降参した次第です。

7) 除隊前夜

11月30日夕食も皆余りたべません。今夜一晩この封筒にもぐれば、明12月1日午前7時いよいよ目出度く満期除隊です。

オジン族S君丈でなく長男族も皆夫々の地に待つて居る美人？があるのです。

明朝食は不要と申し出てありました。

10ヶ月の色々の思い出話しあつた、（沢山あり）楽しかった（余りないけれど）思い出を語り其の間、中隊内の現役営内居住の下士官、現役兵が代わる代わる挨拶に来られ、私共も色々御世話になつた御礼を述べた訳です。

8) 除隊の朝

あれ程憎らしかった起床喇叭も今朝は鳴り響かぬうちに、つまり定刻の時間前に起床し、皆背広服に着換えお互に次はハバロフスクにて一緒になりましょう、否ハルピンで、否チチハルでお目にかかりましょうと様々な別れの言葉を交し午前7時中隊長以下全員が整列している兵舎前で最後の別れを告げ営門を出て地人方となりなつた訳です。

勿論彼S君は大鰐より美人がタクシーで出迎え二人仲良く車中となり大鰐のM医院に行き出身地のY県T町には帰りませんでした。オンジ族はよいもんだと思いました。私共長男族は憐れなものでした。

9) 10ヶ月間の郵便の話題

軍隊は郵便がくれば中隊当番兵の連絡により皆印鑑を持って中隊事務室に行き差出人の関係をきかれ、帳面に捺印の上受領する訳です。その際女性の差出し人は従妹ですと答えるのが前々からの申送りでした。

人事係の性質の余り良くないS特務曹長（後の准尉）が暇にまかせてよく調べてあり、○○候補生には全一の女から毎週一回あて手

紙が来る。まるで週刊紙と全じだと皮肉られたり、又○○候補生は10日に1回必ず手紙がくるねと云われたり楽しみの手紙を受領するのも意の如くなりませんでした。時々個々に呼び出され、毎回全じ女性より手紙が来るがこの女性は君の「何だ」と云われたりするのです。私共一同協議の上「いとこ」ですと答える訳です。彼の意地悪の特務曹長曰く、20年以上軍人生活をして居るが今年度の衛生部幹部候補生程女の「いとこ」を多くもって居る幹部候補生は初めてだ、との皮肉もありました。私共当初はいくら皮肉られても10ヶ月の辛抱だと申し合せをして居りました。

処が長男族がこの様に日刊週間よろしく（旬刊稀、日刊なんてなし）女より便りがあるため私共の外出に際し、簡単に突然禁止令を出したのも、あながちに人事係特務曹長の意地の悪さからではなく、私共の将来の悲劇防止の手段が含まれて居たもので、恨んだ私達の方が悪かったのでした。存命中なら膝をついてお詫びをしたのですが残念乍ら彼特務曹長殿は靖国神社に安眠されて居り、申し訳ありません。

10) 附 記

1年余に亘り古い昔の思い出を語り貴重な紙面を借りました事に深く感謝の意を表し筆を終えます。

尚今は折があれば又昔の思い出として色々なことを書かせて貰います。

例えば、花電車、不明熱、コロリ、ダラ桶等。

段々に老兵の去る時が参りました。只この10ヶ月の鍛錬の御蔭で今日迄生きのびたものと思われます。

自分で自分の体を鍛える事が如何に大事であるかと云うことを今更乍ら感じて居ります。若い時代より歩くことが一番よいことです。

自転車、バス、自動車と云う便利なものが氾濫して居りますが、便利に馴れるとそれ丈自分の健康にプラスにならないと云うこと丈は忘れないで下さい。若い方々は、老兵の繰り言ととらず自ら健康の為考えて下さい。

野球よし、ゴルフ、テニス、ボーリング皆よし。然し一番良いのはなんと云っても歩くことです。皆自分の趣味が一番良い様に思われますが趣味と年令を調和、否調合させて下さい。

以上 各位さようなら。

編 集 後 記

詳細なる「行事関係報告」は、常例のとおり会長自らの執筆。これによって医療関係の動向居ながらにして一目瞭然。御苦労多謝。

故熊谷文五郎先生の御靈前に捧げる会長の弔辞を読み、故先生の御逝去を悼むの念再燃。只管に御冥福を祈る。



本会報に十二回に亘って寄稿され、読むたびに、ユーモア、憩い、寛ぎ、微笑み、を与えてくれた「嗚呼あの頃」は、本号を以って終筆。

名残り惜しい。暫時休憩の後、再度の御寄稿を期待する。



「県医師会野球大会始末記」は、近藤先生の寄稿。実況さながら瞬に浮ぶ。選手の敢闘を讃える。ご苦労様でした。



岩手山頂は、すでに薄化粧。天気予報でも雪という言葉を聞くようになった。向寒の候医師の不養生などにならぬよう、お互いに留意し、各位ご健勝の程を祈る。

(T)